

県下の交通事故 (2月末日現在)

区分	事故件数	死者	傷者
58年	591件	17人	750人
59年	559件	12人	757人
比較	-5.4%	-29.4%	+0.9%



◇第 63号◇
発行所
甲府市丸の内一丁目6-1
財団法人山梨県交通安全協会
TEL 甲府 (0552)37-7827

春の全国交通安全運動

4月6日～4月15日

子供と高齢者の安全を

新入学(園)児を守ろう

昭和五十九年春の全国交通安全運動は、四月六日から十五日までの十日間、全国一斉に実施されます。

本県が決めた運動の重点は、①子供と高齢者の交通事故防止、②二輪車の交通事故防止、③シートベルト着用の推進、④飲酒運転の絶対禁止。昨年は、交通事故死者が前年に比べて大幅に増加して百二十八人を数え、人口十万人当たりでみると全国ワースト一位といきびしい情勢となっております。本年は、この増勢に歯止めをかけて、交通事故者抑止目標二ケタ以下を達成するため、この機会に県民総ぐるみの運動を展開することとしています。

飲酒運転を追放

この運動は、広く県民に交通安全思想と交通道徳を普及徹底し、正しい交通ルールとマナーの実践を習慣づけることにより、交通事故防止の徹底を図ることを目的として行われます。家庭、運転者、歩行者は、よく次のことを守りましょう。



雨の日の暴走

安全のために

前項で述べたとおり、事故は、いろいろな状況で発生し、その原因もさまざまです。折、左折、追突、正面衝突などの事故はすべて、例えば交差点道路に車は来ない「だろ」という思い込みで発生する。対向車はまさか突っ込んで来ない「だろ」、まさか左側を追い抜いて直進する二輪車はない「だろ」、前の車はまさか急に減速して止まることはない「だろ」、あるいはまさか対向車は来ない「だろ」という思い込みが、事故の原因となることが多い。これを防ぐためには、常に周囲の状況を確認し、十分な安全余裕をもち、万が一の事態に備えることが大切です。

見ながら必ず徐行し、安全を確認しましょう。一度止まって左右の安全を確認してから渡りましょう。

少し遅くても横断歩道や歩道橋を渡りましょう。自転車の交通安全からに合った自転車に乗らう。

安全運転五則

1. 安全速度を必ず守る
2. カーブの手前で速度を落とす
3. 交差点では必ず安全を確認する
4. 一時停止で横断歩行者の安全を守る
5. 飲酒運転は絶対しない

○夜間の外出には目立つ服装や反射材の着用を心がけましょう。
○信号の変わり目にあわて渡らないようにしましょう。
○夜間は反射器や前照灯、尾灯の整備された自転車に乗りましょう。
○左右に曲がる時は、正しく合図し安全を確認してから進みます。

○二輪車(バイク)の交通安全
○飲酒運転は絶対しない。
○下駄やサンダルでは乗らないようにしましょう。
○交差点では必ず安全を確認しましょう。
○大型車には近づかないようにしましょう。
○スピードはひかえめに、カーブの手前では必ずスピードを落としましょう。
○ヘルメットをしっかり着用しましょう。
○暴走族を追放しましょう。
○「安全運転五則」を守り、慣習づけるために、まずシートベルトを着用しましょう。

○飲酒運転の絶対禁止
○飲酒運転は絶対にしない。
○運転する人は飲酒しない。
○酒を飲んだら運転しない。
○酒飲み運転を許さない。

運転ミスはどう防ぐか (2)

東京大学名誉教授 平尾 収

「だろ」という思い込みが、事故の原因となることが多い。これを防ぐためには、常に周囲の状況を確認し、十分な安全余裕をもち、万が一の事態に備えることが大切です。また、運転中は常に周囲の状況を確認し、十分な安全余裕をもち、万が一の事態に備えることが大切です。また、運転中は常に周囲の状況を確認し、十分な安全余裕をもち、万が一の事態に備えることが大切です。

「かも」という立場をとって、自分自身も「かも」であるという意識をもち、常に周囲の状況を確認し、十分な安全余裕をもち、万が一の事態に備えることが大切です。また、運転中は常に周囲の状況を確認し、十分な安全余裕をもち、万が一の事態に備えることが大切です。

「かも」という意識をもち、常に周囲の状況を確認し、十分な安全余裕をもち、万が一の事態に備えることが大切です。また、運転中は常に周囲の状況を確認し、十分な安全余裕をもち、万が一の事態に備えることが大切です。

甲斐路で示そう交通マナー ルール違反はみんなて監視

「交通安全は家庭と職場と地域から、

年間スローガンと 運動の重点決まる

県交通安全対策本部（本部長・望月知事）では、昭和五十九年度の山梨県の交通安全年間スローガンと運動の重点を決定しました。

スローガンと運動の重点は、これまで交通安全運動の都度定めてきましたが、交通事故抑止に一層の効果を高めるため、年間を通じたスローガンにより統一キャンペーンを強力に展開する必要がありますから年間スローガンを

「甲斐路で示そう交通マナー違反はみんなて監視」と定め、家庭・職場・地域からの話し合いをもとに県民の連帯意識を高め、その

輪をひろげるため、交通安全は、家庭と職場と地域からのサブタイトルを決めたものです。

そして、年間の運動の重点を

- 一 高齢者交通安全の推進
- 二 ゆっくり走りよう運動の推進
- 三 「みんなで気くばり 自ら実践」の徹底
- 四 思いやり ゆずりあい運動の徹底

とし、本県の高齢化は、全国平均より十年早いペースで進んでいると言われているため、老人の交通死亡事故の発生が死者数に比べて、



緑十字銀章を代表として受賞する三井将英氏

大会宣言

交通事故は、数年前から増勢に転じ、死亡者数は二年連続して九千人を超えた。とくに、若者による無謀運転、二輪車事故、老人、子どもの被害者事故がいぜんとして多発するなど、まことに憂慮にたえないものがある。

ここに第二十四回交通安全全国国民運動中央大会を開催するにあたり、交通安全は相互に思いやり、助けあう連帯の精神を基本に、交通ルールの遵守と安全行動の励行が肝要であることを自覚

- し、次の諸対策を強力に推進することを誓う。
- 一、自動車運転者、とくに、若年運転者に対する安全教育の推進
 - 二、歩行者、自転車、とくに、老人と子どもの事故防止
 - 三、自動二輪車、原動機付自転車の安全教育の推進
 - 四、企業等における交通安全対策の強化
 - 五、シートベルト、幼児用安全シート、ヘルメット着用の励行
- 右 宣言する。
昭和五十九年一月十九日

緑十字金章に小沢副会長 市川安協など全国表彰

第24回交通安全中央大会

全日本交通安全協会と都道府県交通安全協会主催、総理府・警察庁など関係省庁、団体後援の「第二十四回交通安全全国国民運動中央大会」が一月十八、十九の両日東京で開催されました。

第一日は、麹町会館など四会場で「地域」「企業」「個人」「子ども」の四部会にわかれて分科集会を開き、関係講師の講演のあと、それぞれ立場から交通安全対策について意見発表と討議が行われました。

本県から地域部会に甲府安協・小沢副会長、市川安協・上田誠会長、企業部会に市川安協・三井将英会長、トキコ株式会社山梨工場・池田幸三企画部長、婦人部会に甲府安協・鶴田美枝会長、甲府警察署・仙洞田順子交通監視員が出席しました。

第二日は、日比谷公会堂で全国各地の約二千人が参加し本会議が開かれました。

交通安全は家庭から！

最高の教育は親が示す正しい手本です。子供は親のマネをして育ちます。



昭和五十六年以降五十八年間で二・〇％、二五・〇％、三二・八％と高い比率を示し増加していることか

ら、高齢者交通安全の推進を第一に掲げました。

また、死亡事故の違反原因をみると、最高速度違反によるものが死者数に比べて過去三年間、三〇・一％、三〇・一％、三五・八％と高率を占めていることと、県外車両等の事故を防止し、ゆっくり走りよう山梨をおしすすめて「かいじ国体」に向けて、県民総ぐるみで「ゆっくり走りよう運動」の定着化を図ることとしました。

県交本部は、このスローガンと重点を市町村、関係機関、団体を通じて、また交通安全運動をはじめ、各種の機会や、交通安全だより等の発行等を通じて周知徹底するとともに、老人用交通安全リーフレットを作成し、すべりの高齢者に配布し事故防止に努めることとしており、これら新しい対策の成果が期待されています。

新入学児童から 交通事故から 守りましょう



毎年、新入学期にあたる四月には児童の交通事故が多く発生しています。

児童の交通事故の大部分は、「飛び出し」「車両の直前直後の横断」による道路横断中のものです。

児童は、一つのものに注意が向くと、まわりのものが目に入らない、気分によ

- 一 信号機・横断歩道・横断歩道橋など交通安全施設のあるところは、これを利用させる。
 - 二 走ってくる車のすぐ前や、車のすぐ後を横断させない。
 - 三 手や旗を高くあげて、相手によく見えるように合図をさせる。
 - 四 右・左を見て、もう一度右を見て、車がこないことを確かめさせる。
 - 五 道路を渡る時には、絶対に飛び出さず、絶対対し友達とふざけたり、話をしたりして歩かせない。
- 〔交通安全課〕

水口静男氏



水口静男氏は、昭和二十六年から富士吉田安協副会長、十九年甲府安協・県安協監事、同五十七年甲府安協会長・県安協副会長に就任し、



三井将英氏



三井将英氏は、昭和二十二年から甲府安協副会長、同二十五年から甲府安協副会長、同五十年から甲府安協副会長、同五十二年から甲府安協副会長、同五十四年から甲府安協副会長、同五十六年から甲府安協副会長、同五十八年から甲府安協副会長に就任し、

晴れの交通栄 誉章受賞者

小沢副会長

小沢副会長は、昭和十四年竜王安協支部評議員、同十九年甲府安協・県安協監事、同五十七年甲府安協会長・県安協副会長に就任し、

ことしも良い年であり、お互に年頭にあたって新しい目標を定め、その実行を心に誓ってスタートし、もう弥生三月を迎えました。

それにしても、この冬は例年になく厳しい寒気が日本列島を覆い、まさに雪と氷に閉ざされた冷凍の新春でした。一月には、甲府でも続いて積雪十八・十七・十九センチと近年にない大雪に見舞われ、最低気温も連日氷点下が続き、二月には、ついに氷点下十度を割り、十六年ぶりの記録というきびしい冷え込みに襲われ、河口湖方面は、マイナス二十度に達するきびしさが続き、人びとを震え上がらせたのも、つい昨日のことのようです。

県内の交通事故は、昨年に引き続き依然として悪化の傾向をたどり、一月早々には中央自動車道で反対車線を逆行して対向車と正面衝突し、同乗者を巻きこみ二人が亡くなる事故が発生、二月には、深夜強風で、解けない雪を避けて自転車を走らせていた女子学生が、飲酒運転の乗用車にひき逃げされて死亡するなど悲惨な交通事故があらわれ、

県交本部では、ことしこそ事故抑止と頼みの年間スローガンと運動の重点を決めて、県民の協力を呼びかけ、県警察においても抑止目標を定めて急増を続ける交通事故に歯止めをかけようとして努力しています。

しかし事故は絶えないうえ、なせ事故が避けられないのか、なせ死に急ぐ無謀運転をするのか、疑問もどかしさを覚えており、関係機関・団体が手をたずさえて、家庭や地域・職場の一人ひとりに生命の尊厳を訴え続けていくことが大切であり、そして、一件でも交通事故の少ない一年であってほしいと願っています。

死者激増

山梨県はワースト1位 老人と子どもが急増

全国の事故

警察庁のまとめによると、昭和五十八年中の全国の交通事故は、件数、死者、傷者ともに大幅に増加し、とくに死者は九千五百二十人と前年より四百四十七人、四・九%と著しく増加し、二年連続九千人台となりました。

交通事故による死者は、昭和四十五年の一万六千七百六十五人をピークに減少を続けて、五十四年にはほぼ半減となりましたが、その後増加に転じ、六年ぶりに五十七年には九千人の大台を超えました。

各都道府県別では、前年対比で増加したのは山梨を含めて二十九道県にのぼり、十七府県が減少しました。死亡事故の特徴としては、二輪車事故とお年寄りの事故が急増していることが原因とみられています。このまま推移すれば、本年の交通事故死者数は昭和

本県の事故

県内の昨年の交通事故は、発生四千五百八十件、死者百二十八人、傷者五千八百七十四人で、前年比で七・七%増、死者は百二十八人、一・八%増、傷者は七百七十一人、一・五%増といずれも増加しました。

交通事故による死者は、前年の百八人をさらに上回り、昭和五十一年以来最高の百二十八人となり、増加率は全国ワースト九位となっています。

人口十万人当りの死者数は、全国平均八・〇二人であるのに対し、本県は一五・七八人で前年の二位を上回り、全国ワースト一位となり、まさに、本県は交通危険度の高い県として位置づけられることとなります。

死亡事故発生路線別にみると、国道四十五件四十七人、県道三十八件三十八人、市町村道三十三件三十三人



署来訪者の安全のため雪かきに励み、大雪にひと役買ってもらって雪ダルマで交通安全を願う(韭崎署)



地区だより

大雪後の危険道路の整理に活躍する
嶽沢支部幹部 (嶽沢)



昭和五十九年も前年同様死亡事故減少と
市民の交通安全を祈って一月十八日管内
交通関係団体合同の祈願祭を行った。
(大月署)

二月六日全国表彰の受賞を祝う(市川)

死亡事故に歯止めを ことしは二ケタ以内に

ことしは二ケタ以内に

— 県警 —

県警は、昭和五十九年中の交通事故死者の抑止目標を二ケタ以内とすることを決めた。

昨年の県内の交通事故による死者は、前年に続いて二ケタ台を大きく上回り、百二十八人となり期待に反する結果となりました。

昭和四十四年の死者二百二十七人をピークに減少傾向にありましたが、五十三年から再び増勢に転じ、以降増減を繰り返して、とくに最近急増の傾向を示しています。

このため県警は、本年の重点目標に、「交通死亡事故の抑止」を掲げて強力な対策を展開することとしました。

目標の設定にあたっては、過去の実績、同規模県との比較と、警察庁の昭和六十一年までに全国の交通事故による死者を八千人以下とする長期目標の中で、本県の位置づけ等をみてこの目標を決めたものです。

抑止目標を達成するため県警は

- 一 良好な道路交通環境の整備
- 二 運転者行政の積極的な展開
- 三 適正かつ効果的な交通指導取締り及び捜査活動の推進
- 四 飲酒運転追放対策の推進
- 五 二輪車対策の推進
- 六 高速道路における安全かつ円滑な交通の確保
- 七 交通安全教育等の推進を重点対策として実施することとしています。

で、とくに市町村道が前年比五七・九%と増加しているのが目立ち、大事故が幹線道路以外にも拡大していると言えま。

時間別では、八時から十時十八人四・一%、十六時から十八時十八人四・一%、十八時から二十時十五人一・七%、二十二時から二十四時十五人一・七%であり、朝夕と深夜事故が目立っています。

事故類型では、車対車四十六件四十八人、人対車四十七件四十八人、車対歩行者四十七件四十八人、人対歩行者四十七件四十八人と、死者が十七人七三・九%と大幅に増加しました。

違反原因では、最高速度違反四十四件四十五人、酒酔い運転二十件二十人で過半数を占め、無謀運転に起因するものが多くなっています。

状態別では、歩行中四十二人前年比十八人七五・〇%増、自転車運転中十四人前年比七人一〇〇%と激増しています。

年代別では、老人四十二人前年比十五人五五・六%増、子ども十五人前年比十二人四〇・〇%と激増し、交通弱者の悲惨な死亡事故が多発しました。

出合頭十四件、カーブ事故四十件、歩行者横断事故二十五件計七十九件と三類と高い率を示しています。



交通安全活動の推進を誓い大会宣言を採択する

母親は家庭の交通安全管理
— 県交母連 —

母親活動推進大会開く
県交通安全母の会連合会(鶴田美枝会長)は、二月二十日県農業共済会館で、交通安全母活動推進大会と指導者講習会を開催しました。

大会は、県知事代理・功刀県民生活局長 西村県警本部長、県安協会長代理・吉田常任副会長など来賓を迎え、県内各地区交母の役員四百人が出席して、交通事故犠牲者に対する追悼の黙禱をささげ開会式にうつりました。

県交母を代表して、鶴田会長が、きびしい交通情勢の中にあつて家庭や地域に

根ざした母親活動を強力に実施する旨あいさつし、来賓の方々からあたたかい激励のあいさつを受け、子どもとお年寄りを交通事故から守るため効果的な交通安全教育を推進する等五項目の実践を誓う大会宣言を採択しました。

引き続き、山梨日日新聞社論説委員長・内田敏雄氏から「車から見た国際情勢」と題する講演を聞き、その後、甲府、日下部、大月各交母の代表者から地域活動の発表がありました。

午後九時には、県警交通部長・酒井澄男氏の「安全活動の主役」と題する講演があり、続いて、昨年十二月に実施した山梨県中学生交通安全弁論大会の優秀者大泉村立泉中三年・谷戸かすみさんと中富町立中富中三年・笠井由美子さんの熱のこもった弁論の発表がありました。

参加者は、母親活動の重要性と方策を研修し、また広い視野に立った見識を深めることができました。

最後に、アトラクションとして十三交母会員による歌と踊りがひろげられ、なごやかなうちに盛会に幕を閉じました。

山梨県交通安全協会会員の ための災害共済のお奨め

万人は一人のために 一人は万人のために
※保険会社の職員が内容説明に伺います

提供団体 山梨県交通安全協会
引受会社 **協栄生命**
甲府市丸の内三丁目20-3
TEL (0552) 22-4836代

おんせん一家は



この出来事は、今から五年前のことですが、それまで身近なところで、人の死という事に出会った経験のなかった私は、強い衝撃を受け、一人の人間が、交通事故に遭って死ぬという事は、こんなにも重大なことなのかと思えました。最近では、近くで交通事故が発生し、たとえ死亡者が出たとしても、そんなに

たいぬむり運転の車につきあげられ、三人とも生死のさかいらまよったというような重大事故が発生しました。幸いにも三人とも生命をとりとめ、驚くほどの速さで回復したのですが、その事故をきっかけに本校では、安全委員会を中心とした、全校生徒総ぐるみでの交通安全への取り組みを始めた

そうです。この先輩たちの活動は、現在でも、安全委員会の活動を中心に行きつづけて、街頭指導や腕章をつける運動をすすめています。しかし、私の見たところでは、交通安全意識という点では、少し後退しているのではないかと思います。たしかに登校のしかたなどについては、新聞の投書欄や、手紙などでその人からもほめられたこともありますが、安全委員会の調査でも、多くの生徒が守れていると答えています。しかし、同じ調査の中で例えは、日曜日の自転車の

ということは当然のことですが、それらのおくにある「人命の尊重」という一番大事なことに目をむけなければならぬと思います。最近の社会は、自分の欲望をみたしたり、うさをほらすために、なんの関係もない他人の命をあつさりとうばつてしまおうという、おそろしい世の中です。交通事故もふくめて、これらはみんな「人命尊重」の意識がたいへん低いあらわれだと思えます。

人間のいのちの 尊さを考えよう

中富中3年 笠井 由美子



乗り方などを見ると、開放感もつたか、二人乗り、手なし運転、ジグザグ運転、信号無視など、ほとんどの人が、なんらかのまちがった乗り方をしていることをみとめています。このように、学校をはなれたところでの様子を見ると、私達の交通安全意識を高めるための活動は、まだまだ不十分だといえると思えます。

また、学園祭では、交通安全をおこなした家族の苦しみや、涙をテーマにした劇を演じ、見に来ていた父兄や地域の人たちに交通安全を訴え、好評をよみました。このように、広く社会にも交通安全を訴える活動をしていくこともたいへん大事だと思えます。

も気にとめずまた、くらくらにしか思わないことが多いのですが、その一つ一つの事故を、あの時の出来事にたづねてみると、人々が交通事故の恐ろしさをまじくまじく感じてしまっていることに恐ろしささえ、感じます。

さて、私達の中富中学校では、四年前に、下校途中の生徒二人が、後ろから来

私達の学校では、七月に人権を考える集会を開きました。また、八月九日の全校登校日には、平和の尊さを考える集会を開き、原爆で犠牲になった人々のことや、戦死した多くの人々のことをもとにして、人間の命の尊さについて考えを深めました。

交通事故を起し、刑務所で新年を迎えた私は、一年という刑期を、やっと半分終わったところです。市原刑務所から見える遠い街の灯、工業地帯の灯が輝いて見え、長く感じた正月が過ぎ、やっと私が出所できる年が来ました。しかし、私が刑務所に服役する

事故 大工 (20歳)

自分勝手な運転が、まさか被害者の家族、私の家族をも、ならくの底へと引きずり込んでしまったのです。こんな結果になろうとは思っていませんでした。だけにショックは大きかったです。たとえ示談が成立したとはいえ、被害者の家族のとてつもなく深い悲しみ、苦しみを晴らすことはできないのです。

私の事故は、昭和五十六年十月二十四日、午前十時五十三分の出来事でした。風もなく雲一つない天気でした。私はこの朝、釣りに行くために車に乗り込み、目的地へ車を走らせました。

おが 贖いの日々

ことになった理由は、なんの罪もない女性の命を奪ってしまったからなのです。自分に限って、交通事故など起すはずがない、事故を起すのは、よほど運が悪いのだなどと思っていました。あの悲惨な事故を起し、その後は……



武田神社 社前で交通事故防止を誓う

ことしの交通安全を祈願

県安協と県警関係者は、年頭の一月七日、武田神社において恒例の交通安全の祈願を行いました。県警から西村勝本部長をはじめ交通幹部、交通機動隊員、県安協から役員等七〇名と白バイ・パトカーが参列して、神前でお祓いを受け、ことし一年の交通安全と事故防止を祈願しました。昨年は、県民すべてが願うもむなしく交通事故が激増し、死者は過去八年間で最高の百二十八人を数えることとなりました。今年こそ交通事故による死者を二ケタ台に抑止するため、一層の努力を尽くすことを誓いました。

○ 県下一の 広いコースで 早い上達を!

○ 伝統ある当校で 1日も早く免許証を あなたの手へ

財団法人 山梨県交通安全協会経営

公認 山梨自動車学校

八田村野牛島1828 山梨県運転免許センター内
TEL 05528-5-0752

過ぎでしたが、この道は通動で通る道で、あんなにスピードを出して陸橋を走ったことありませんでした。釣りに行くため、急いでいてスピード感覚がなくなり、また、車の性能を過信していたというほかありません。しかし、これは被害者から見れば、運が悪かったなという問題では済まされず、また、起こるべくして起こった事故と思われても仕方がないのです。

あなたの自転車にTSマークを はりましょう

◎ TSマークは点検整備基準に適合した普通自転車のしるしです。

◎ TSマークには保険がついています。

◎ TSマークは自転車安全整備店ではりませう。

◎ TSマークをはりませう。点検整備基準に適合しているかどうかを確認します。また、整備不良が所については必要整備を行います。

がないうのです。それというの私には、この事故の前にもスピード違反で捕まり、なおも違反を何度も繰り返して運転をしていました。その根底には、法律を無視していた心とまさか自分が事故を起すはずがないという甘い考えがあったに違いありません。

今、思ってみれば、なぜ社会で騒がれている交通事故を、自分自身の身になって考えてみなかったのか、早く、もっと早く、現在の気持ちで運転してさえいれば、少なくとも加害者になることはなかったのではないかと。今となっては、すべてが遅かったのです。

法律を守り、他人を思いやる気持ちをもって、交通事故は必ず減ると思います。人のことだからなどと、他人事のように思わないで、安全運転のできる心をもってください。

私は、示談は成立してありますが、これから社会復帰しても、人をあやめてしまったという、重大な荷を一生背負い、生きてゆかねばなりません。

(東京交通安全協会発行「青いシグナル」より)